

発行

株式会社 エスクリエイト

名古屋市中区錦一丁目4番16号 日銀前KDビル4階

TEL : 052-222-3600 FAX: 052-222-3699

URL : <http://screate-soft.co.jp/>

担当: コンサルタント 石垣 智博

tomohiro.ishigaki@screate-soft.co.jp

たまには遠くを見てみよう

ゴールデンウィークはどのように過ごされましたでしょうか?今年のゴールデンウィークは長くて11連休とれる方がいたとのこと(とってもうらやましい)。それでなくても、普段できないことができたのではないのでしょうか。

運輸業やサービス業など休みがない業種の方は仕事だったと思います。しっかりリフレッシュしてくださいね。

◆たまには遠くを見てみよう

さて、面白い記事がありました。2027年開業予定であるリニア新幹線のITに関する記事です。

この記事では、「**鉄道のシステムは障害を発生させるわけにはいけないので、十分に検証された堅牢性・安全性が高いシステムを使うことがポリシーである**」とあります。

半面、次の記事のように新しい取り組みが必要だとしています。「**～例えばリニア新幹線向けのシステムはどうあるべきか。2027年開業時には世の中は大きく変わっているだろう(中略)我々はどうしてもシステムや設備などの現状から考えてしまうが、リニア新幹線の開業はまだ先である。その頃に切符売り場が必要なのかといった話も含め、どうなるかは**まだ誰もわからない**～**」

～日経コンピュータ4.17号CIOの哲学 JR 東海山本氏～

この記事で「ドキッ」としました。何に「ドキッ」としたのか?

それは「そんな先のことを最近では考えることはめっきり減ったなあ」と感じてちょっとモヤモヤしていました。ほどなくして「最近、目先の問題課題を解決することを中心としていることが多く、近視眼的になりすぎでは?」「時間という軸で俯瞰的に考えることがなかったのでは?」ということに気づき「ドキッ」とした次第です。

普段は、1年後、2年後、3年後にこうありたいというビジョンをベースとした業務をしています。ただ、10年後・20年後に思いをはせることが少なかったです。そして、10年後・20年後を想像してもそれっきりで、何も行動を起こそうとしなかったと、猛省しているところです。

もちろん、業界やごく一部の企業では、先のことを見据えて仕事をしていると思います。たとえば、さきほどのリニア新幹線、エネルギー、資源、保険などが挙げられます。

しかし、個人レベル(特に目先の業務にまい進している状態)では、先のことをぼんやりイメージするにとどまることが多いのではないのでしょうか。

会社レベルでも「そんな先のことが分からない」「余裕はない」という会社が多くあるかと思います。

もちろん、「**どうなるかはまだ誰もわからない**」です。未来に起こることに対して、最適な答えは分かりません。しかし、その先のわからないことに対して柔軟に対応できる状態にしていく必要があります。

リニア新幹線の場合、ITとは切り離せないです。業務とITをうまく掛け合わせて、さらに未来志向で検討していく必要があります。未来の旅程はどうあるべきか?未来のITはどうなっているのか?またどうすべきか?クラウドを有効活用していくのか?など柔軟に対応できるように検討をたくさんしていくと考えられます。きっと、リニア新幹線では新しいコト・モノを提案してくれるに違いありませんね。

余談ですが、2027年頃に高速で移動するニーズがどれくらいあるのかなあ?と書いてしまいます。その時にならないとわからないのはありますが・・・ITの技術もかなり高度化していると思います。ネットを使った会議も今よりやりやすいかもしれませんので、移動する必要性が減ってくる要

因があります。反対に支店・営業所を統廃合してリニアでの出張が増えるかもしれません。（東京から「今日は名古屋で営業です」といって夕方には東京に戻ることが可能となるわけですから。）（旅券の値段にもよるとは思いますが・・・）

このように、10年以上先のことであるリニア新幹線1つ見ても、地域に少なからずの影響はあると思います。遠くのことを考える時間を少しでもつくってはいかがでしょうか。

リニア新幹線の切符売り場に限って勝手に想像すれば、マイナンバーカードを提示すれば、予約した指定席にすわれたりして……。きっと、未来の切符の形を示してくれると思います。楽しみです。


今後、SC通信の紙面でも「遠くを見る」に視点をおいた連載をしたいと思いました。

「本は考える為のサプリメント」(その37)

今月は自己啓発に関する書籍を紹介します。書籍の副題は「自己啓発の源流「アドラー」の教え」です。

「本書は、フロイト、ユングと並び『心理学の三大巨頭』と称される、アルフレッド・アドラーの思想（アドラーの心理学）を、『青年と哲人の対話編』という物語形式を用いてまとめた一冊です。」「『どうすれば人は幸せに生きることができるか』という哲学的な問いにきわめてシンプルかつ具体的な“答え”を提示します。」と、本書の扉に記されています。

「答え」とは何だろう？とワクワクしながら読みました。

 「嫌われる勇氣」（岸見 一郎・古賀 史健 著）

本書を紹介したのですが、まだ理解できていない・腑に落ちていない部分があります。本書の中でも、アドラーの心理学をほんとうに理解して実践できるには、それまで生きてきた年数の半分の年数が必要になると記されていますし……。

◇アドラーの心理学では、過去の「原因」ではなく、いまの「目的」を考える。（中略）トラウマは存在しない。

◇あなたは、あなたのライフスタイルを自ら選んだのです。（中略）自分で再び選べるのが可能。（中略）あなたが変わらないでいるのは、自らに対して「変わらない」という決心を下している。

◇人間の悩みは、すべて対人関係の悩みである。

◇誤りを認めること、謝罪の言葉を述べること、権力争いから降りること、これらはいずれも「負け」ではありません。

◇アドラーの心理学では、他者からの承認を求めることを否定します。（中略）最終的には他者の人生を生きることとなります。（中略）他社もまた「あなたの期待を満たすために生きているのではない」のです。

◇他者がどのような評価を下すのか。他者の課題であってあなたの課題ではない。

◇幸福とは貢献感である。

◇過去にどんなことがあったのかなど、あなたの「いま、ここ」に何の関係もないし、未来がどうであるかなど「いま、ここ」で考える問題ではない。（中略）人生における最大の嘘、それは「いま、ここ」を生きないことです。

受け入れがたいと感じる部分（トラウマを否定している箇所など）があるかもしれません。しかし、人によっては、それらは過去にとらわれず未来へ向かっていくヒントを与えてくれるものかもしれません。

色々極端かな？と思える部分もあります。反面、目からうろこが落ちた記載もあります。

まずは、心理学・哲学の本を読むというのではなく、自己啓発の本というつもりでリラックスして読むと良いでしょう。

私自身は、まだまだ腑に落ちていない部分もありますが、心理的に楽になったと感じています。面白いです。

編集後記

本編でも少し記述しましたが、IT業界ではマイナンバー制度（行政手続番号法（正式名称はもっと長いです））の話題がにぎやかになってきています。

このマイナンバー制度、他人ごとではないことはご存知ですか？給与所得の源泉徴収票に記載が必要になるなど、税金や年健保・年金に関することで、マイナンバーを必要とするようです。そうなると企業にとっても、社員のマイナンバーを管理・利用することが必要です。

2016年1月からマイナンバーの活用がスタートする予定です。時間がありますので、情報収集を早めに行ったほうが良いですね。私もマイナンバー制度について詳しく知りたいと思います。（石）

